



名古屋大で今春から学部を越えた正規授業・基礎セミナーで「柔道を通じた障害者教育」が始まった。担当の同大大学院工学研究科教授瓜谷章さん(四七)は「名古屋市緑区篠の風」は「学生たちにとって知らないことばかり。視野を広げてほしい」と強調する。

柔道の初心者を含む十二人が受講。七月まで知

柔道で障害考える

障害者教育の現状を学び、NPO法人愛知国際柔道自然塾(愛知県豊橋市)の知的障害者が対象の教室に参加、指導補助をする。同塾の活動では知的障害者の体力が向上したり、落ち着きが出たりするなど効果が表れており、「柔道の可能性を知ってもらえれば」と願う。

名大入学とともに本格的に柔道を始めた。昨年、名大柔道部長に就任し、悩みは部員の少なさ。「男子は十五人。全国七大学総合体育大会の団体戦に出場できるぎりぎりの数」といい、入部を呼び掛ける。専攻は中性子の産業利用。